令和４年度　江戸川区立南葛西小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・教科担任制の導入	・チャレンジタイム（ベーシックドリル活用補習）の設定 ・漢字/計算コンテストの実施 ・学習規律の徹底 ・調べ学習においてIPADの積極的な活用 ・eライブラリの活用　補習年間35回実施 ・学年間教科担任制の実施	・実施率100％ ・ベーシック診断・Aと比較しBの定着率10％アップ ・児童肯定的評価80％ ・全学年で読書科にてIPADの活用 ・補習活用　100％ ・全学年で教科担任制の実施	A	B	・チャレンジタイム実施率100％・ベーシックの定着率は12月の診断Bを受けて比較、分析し、次年度へ生かす。 ・学習規律については継続的に指導中。全員が意欲的に学習できるような授業づくりができつつある。 ・調べたりまとめたりする活動やeライブラリなどでの活用は定着しつつある。今後は共有や交流の場面での活用を目指す。 ・教科担任は調整し、できる範囲で実施できているので、次年度も実施していく。	A	・学力向上のための取組がきちんと実施されており、すばらしい。教科担任制を継続して実施してほしい。 ・細かな対策が効果を表している。 ・自分の知りたいことを「どう探して、どう見つけるか」のトレーニングが非常に効果的だと思います。	・全国学力調査の結果を分析した結果、基礎基本に課題があることが分かった。次年度に向け、学校独自の学力向上に向けた計画を立てた。しっかりと実施していく。 ・児童用タブレットの活用の仕方について、情報教育部で再度検討することで、より効果的な使用方法を見出していく。 ・今年度の経験を活かし、次年度も教科担任制を実施していく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・食育の充実 ・スポーツインストラクターと連携した技術、体力の向上	・体育で学習カード活用、中休み全員校庭・体育館 ・栄養教諭による授業　全学級 ・ゲストティーチャーを招聘し、授業改善を図る。	・教員・児童意識調査80％ ・実施率100％ ・全学年実施。	B	B	・体育の時間には、学習カードを活用しながら、取り組めた。 ・全学級年間を通して栄養教諭による食育の授業を実施する計画を立てて実施した。 ・2学期にはスポーツインストラクターを招き、各種目に特化した授業を実施してもらった。 ・休み時間は、多くの児童が外遊びを実施できているが、全員ではないため、指導していく。	B	・児童が楽しく体を動かせるようインストラクターの授業を続けてほしい。 ・取り組みや成果がAとなる様に身近な目標を立て、一つずつクリアしていってほしい。 ・コロナ禍で大変ではあるが、効果的な体力増進策を立てて欲しい。 ・表彰の場を増やしてみてはどうでしょうか。	・使用した体育カードは、データで保存しておき、共有できるようにする。 ・引き続きオリパラレガシーを意識し、スポーツインストラクターを講師として招聘し、授業改善、授業の充実を図っていく。 ・休み時間に全児童が外遊びできるよう運動遊びの内容の改善や運動強化月間を設定する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・校内研究での研究授業の実施 ・校内調べるコンクールの実施 ・探究的な学習での学校図書館の利用 ・「おすすめの本」読破	・実施率100％ ・保護者肯定的評価80％及び児童肯定的評価80％ ・クラスで月３回以上の利用 ・クラスの80％の児童が読破	A	B	・校内研究授業100％実施。・校内調べるコンクールでは、全員が自分の作品を発表した。 ・学校図書館司書に学習支援に入ってもらえるように計画し実行した。 ・「おすすめの本」の目標冊数を読むために読書記録を活用したり、夏季休業中の課題に出したりして取り組んでいる。高学年は達成できている児童が少なく、読ませる工夫をしていきたい。	A	・読書週間を身に付けるためには、家庭による環境づくりや指導も重要だと思う。 ・さらに書籍に触れる機会が増えるようにしてほしい。 ・読書の習慣作りに期待しています。 ・低学年で読書週間を付けていくとよいのでは。	・校内調べるコンクールで身に付けた力を他教科や生活に生かせるよう授業を工夫していく。 ・どの学年も家庭との連携を充実させていく
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・特別支援教育研修会　年3回実施 ・校内委員会　月1回情報共有 ・エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築 ・教材教具・掲示物の工夫、視覚的支援	・実施率100％ ・実施率100％ ・協力体制表の作成及び随時対応 ・教員、児童肯定的評価80％	A	A	・特別支援教育研修会について、これまでに2回実施をした。残りの1回では、ユニバーサルデザインについて実施し、どの児童にも有効な授業・掲示物を目指す。 ・校内委員会は、毎月１回実施し、児童理解や支援を実施した。 ・エンカレッジルームの活用について、教職員の協力体制を構築できている。引き続きいつでも利用可能な体制を整えていく。 ・全学級で授業の流れがわかるような掲示を共通して使用した。児童アンケート82％、教員100％が肯定的評価だった。	A	・ユニバーサルデザインを取り入れた教室づくりは多岐に渡り、工夫が必要となり、大変ご苦労が多いと思うが進めてほしい。 ・エンカレッジルームの活用が以前より充実してきていると思っています。 ・基本的人権の尊重に根差した指導を望みます。 ・早期発見を継続してください。 ・全児童を大切にしているすばらしい取り組みだと思います。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境を整えていく。 ・児童の実態に応じた個別支援を校内委員会及び特別支援委員会で確認・実施していく。通級の教員とも連携しながら、エンカレッジルームの活用も継続して実施していく。 ・授業スタンダードを生かした授業を次年度も実施し、分かりやすい授業ができるよう授業改善を継続する。
	子供たちの健全育成	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・生活指導連絡協議会の活用 ・児童相談所及びSSWとの協力 ・ハイパーQUの活用 ・人権意識向上	・学期に一回、生活アンケート・いじめ関連の道徳授業の実施。 ・いじめ防止研修会の実施。 ・金曜夕会による共通理解による未然防止 ・SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関と繋ぐ。 ・ハイパーQUの分析を実施し、学級経営に生かす。 ・「江戸川区子どもの権利条約」について授業を実施する。	・いじめ対応の継続事案0。 ・実施率100％ ・保護者アンケート肯定的評価80％ ・実施率100％ ・QU研修の実施 ・実施率100％	A	A	・ふれあい月間に教職員の研修を実施した。また、学校生活アンケートを実施し、いじめと案件をしっかりと認知した。聞き取りを管理職が実施し、指導を行った。 ・いじめ防止研修を副校長を講師に行った。教員のいじめに関する意識の向上を図ることができた。・不登校については担任が家庭との連絡をとり、登校を促している。sswが入り登校支援を行い、登校できる児童が増えてきた。 ・ハイパーQUを2回実施し、比較検討した。研修会や学年で配慮を要する児童の理解、手立てを話し合った。 ・「江戸川区子どもの権利条約」は学校全体で指導	A	・いじめ継続事案0は教員の方々の目配り、適切な対応の速さの賜物であると感心します。SSWの登校支援も継続してほしい。 ・多種多様な事例がある中で先生方には懸命な対応を頂き、大変感謝しています。	・いじめ認知もれ0を継続し、いじめを見逃さず、いじめの早期発見・早期対応を継続していく。 ・不登校児童に対して、今後も家庭と連携を密にし、外部機関とも連携をしっかりと取りながら、登校できる環境づくりを継続していく。 ・次年度もハイパーQUを活用し、学級の様子や児童の心の様子をしっかりと把握し、学級指導・授業改善・個別指導に生かしていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・PTA活動、地域行事への参加、HP等による情報公開 ・年3回　学校評議員会の実施 ・保護者アンケートの実施	・HP,連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信　保護者アンケート肯定的評価80％ ・実施率100％ ・回収率80％以上	A	B	・学校の教育活動をホームページや学校だより「南小トピック」で情報発信している。引き続き、SNSや紙ベースで情報発信をしていく。（HP更新回数338回1／16現在） ・保護者アンケートを実施し、アンケート結果を入れて最終報告を2月末に実施する。成果と課題を生かして次年度の計画を作成する。回収率57％。	B	・HPの更新作業は大変だと思うが、細かな情報や様子など楽しく拝見しています。 ・より開かれた学校を目指してください。 ・情報をこまめに発信されており、学校生活の様子が分かる貴重なツールだと感じております。	・学校ホームページを活用し、学校の様子が保護者・地域に伝わるよう更新していく。 ・児童アンケート・保護者アンケートの結果を生かして、次年度の教育活動を充実させていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・時間外勤務の削減	・2週間に1回の一斉退勤日の設定 ・業務内容の精選	・年間20回実施 ・学校評価を活用した業務内容の精選、改善。	A	B	・第1、第3水曜日を一斉退勤日に設定し、時間外勤務の軽減を図った。まだ、時間外勤務が多く、改善していく必要がある。 ・業務内容精選・改編した部分について、9月に教職員にアンケートを実施し、改善策を示した。	B	・コロナ禍で教員の方々に負担が掛かり大変だと思います。 ・先生方の認識、意識改革が必要である。 ・教職員の組織として無駄な作業を洗い出しをボトムアップで実施していただきたい。	・働き方改革を実現するために、教員からの意見を聞き、対策を考え、意見をまとめ、業務の精選や取り組み方法の変更を行った。次年度も継続し、働き方改革を実施していく。